ESMPRO/ServerAgent Extension
インストレーションマニュアル

Document Rev.1.01

目次

商標について

Windows Server 2008 は、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise operating system、Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32-Bit operating system、および Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32-Bit operating system の略です。Windows Vista は、Windows Vista® Business、Windows Vista® Enterprise、Windows Vista® Ultimate の略称です。Windows Server 2003 x64 Editions は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard x64 Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise x64 Edition operating system の略称です。Windows Server 2003 は Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition operating system または、Microsoft® Windows Server® 2003 Standard Edition operating system および Microsoft® Windows Server® 2003 Enterprise Edition operating system の略称です。Windows XP x64 Edition は Microsoft® Windows ® XP Professional x64 Edition operating system の略称です。Windows XP は Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft Windows XP Professional operating system の略称です。Windows 2000 は Microsoft® Windows® 2000 Server operating system および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server operating system、Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略称です。Windows NT は Microsoft® Windows NT® Server network operating system version 3.51/4.0 および Microsoft® Windows NT® Workstation operating system version 3.51/4.0 の略称です。Windows Me は Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System の略称です。Windows 98 は Microsoft® Windows® 98 operating system の略称です。Windows95 は Microsoft® Windows® 95 operating system の略称です。DOS は MS-DOS®または ROM-DOS®の略称です。

本製品には、Sun Microsystems 社から無償で配布されている JRE (Java Runtime Environment)、および AT&T ケンブリッジ研究所から無償で配布されている VNC (Virtual Network Computing)を含んでいます。これらの製品については、それぞれの使用許諾に同意した上でご利用願います。著作権、所有権の詳細については以下の LICENSE ファイルを参照してください。
JRE：<JRE をインストールしたディレクトリ>下の LICENSE

■ ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
(4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
(5) 運用した結果の影響については（4）項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書について

本書では、「ESMPRO/ServerAgent Extension」のインストールから、管理対象サーバのセットアップまでの手順について説明しています。
ESMPRO/ServerAgent Extension をご使用になる前に本書をよくお読みになり、正しくお使いになるようお願い申し上げます。

■ ご注意

本書での内容は、対象 OS の機能や操作方法およびネットワークの機能や設定方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。対象 OS に関する操作や不明点については、各 OS のオンラインヘルプなどを参照してください。

本書では、管理対象サーバ全般について、汎用的に説明しています。管理対象サーバの製品別の注意事項や制限事項は、管理対象サーバに添付されているユーザーズガイドまたは「ESMPRO Manager Ver.5 セットアップガイド」を参照してください。

本書に掲載されている画面イメージ上に記載されている名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。また、画面イメージ上の設定値は例であり、IP アドレスなどの設定値についての動作保証を行うものではありません。

■ 本書中の記号について

本文中では次の 3 種類の記号を使用しています。それぞれの意味を示します。

重要： **ソフトウェアや装置を取り扱う上で守らなければならない事柄や特に注意すべき点を示します。**
チェック： **ソフトウェアや装置を取り扱う上で確認しておく必要がある点を示します。**
ヒント： **知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。**

■ **ESMPRO/ServerAgent Extension** のその他の説明について

本書に記載されていない、ESMPRO/ServerAgent Extension のその他の説明については、以下の文書を参照してください。

- セットアップ後の操作方法
  ESMPRO/ServerAgent Extension のヘルプを参照してください。

第1章　ESMPRO/ServerAgent Extensionについて

ESMPRO/ServerAgent Extension は、管理対象サーバ上で動作するソフトウェアであり、管理対象サーバ上の BMC をコンフィグレーションします。また、ESMPRO/ServerManager から指示されたコマンドを実行します。

1.1　ESMPRO/ServerAgent Extensionの機能

■　**BMC コンフィグレーション**
管理対象サーバ上の BMC にコンフィグレーション情報を設定することができます。
BMC にコンフィグレーション情報を設定した後、ESMPRO/ServerManager から管理対象サーバの操作が可能になります。

■　システム情報　（バージョン情報）
BMC Firmware Version、センサ装置情報(SDR)、System BIOS、VNC の各バージョン情報を表示します。

第2章　動作環境

2.1　管理対象サーバ

ESMPRO/ServerAgent Extension は管理対象サーバ上にインストールしてください。
ESMPRO/ServerAgent Extension を動作させることができる環境は以下のとおりです。

■　ハードウェア

ESMPRO/ServerManager の管理対象サーバで、かつ、以下の条件を満たしていることが必要です。

- 管理対象サーバ
  - ・ IPMI ver.1.5 または ver.2.0 に準拠した BMC を搭載している Express5800 シリーズおよび iStorage シリーズ。
  - ・ IPMI ver.2.0 に準拠した EXPRESSSCOPE エンジンまたは EXPRESSSCOPE エンジン 2 を搭載している Express5800 シリーズおよび iStorage シリーズ。
  - ・ IPMI ver.1.5 または ver.2.0 に準拠したリモートマネージメントカード[N8115-01CP01]を搭載している Express5800 シリーズおよび iStorage シリーズ。
  - ・ IPMI ver.2.0 に準拠したアドバンスドリモートマネージメントカード[N8115-02CP01]を搭載している Express5800 シリーズおよび iStorage シリーズ。

> ヒント：
> - EXPRESSSCOPE エンジンおよび EXPRESSSCOPE エンジン 2 を総称して、EXPRESSSCOPE エンジンシリーズと呼びます。

- メモリ
  512MB 以上

- ハードディスクの空き容量
  100MB 以上

■　ソフトウェア

- **OS**

  Microsoft Windows 2000 Server/Advanced Server (SP4)
  Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition/Enterprise Edition
  Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition/Enterprise Edition
  Microsoft Windows Server 2003 Standard/Enterprise x64 Edition
  Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard/Enterprise x64 Edition
  Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise Edition
  Microsoft Windows Server 2008 Standard/Enterprise x64 Edition

  Red Hat Enterprise Linux ES 2.1
  Red Hat Enterprise Linux AS 2.1
  Red Hat Enterprise Linux ES 3.0 (x86)
  Red Hat Enterprise Linux AS 3.0 (x86, x64)
  Red Hat Enterprise Linux ES 4 (x86, x64)
  Red Hat Enterprise Linux AS 4 (x86, x64)
  Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform 5 (x86)
  Red Hat Enterprise Linux Server 5 (x86)

Miracle Linux Standard Edition 2.1
Miracle Linux 3.0 – Asianux Inside
Miracle Linux 4.0 – Asianux Inside (x86, x64)

重要：

- 以下の環境の場合、ESMPRO/ServerAgent Extension のインストールをサポートしていません。
  ・Windows Server 2008 Server Core インストールオプションを選択した場合
  ・Hyper-V をインストールした場合

- その他

ESMPRO/ServerManager と ESMPRO/ServerAgent Extension が通信を行って実現するリモート管理機能を利用するためには、以下のソフトウェアが必要です。
・JRE 5.0 (32 ビット版 1.5.0_13 以上)
(JRE 5.0 は ESMPRO/ServerAgent Extension に添付されています。)

Windows や Linux 起動後の画面のリモートコンソール機能を使用する場合は以下のソフトウェアが必要です。
・GUI リモートコンソール機能
利用可能な GUI リモートコンソールは管理対象サーバの OS により異なります。

管理対象サーバの OS	GUI リモートコンソール機能
Microsoft Windows	VNC 3.3.3 (ESMPRO/ServerAgent Extension **に添付されています。**)
Red Hat Enterprise Linux ES 2.1 Red Hat Enterprise Linux AS 2.1 Miracle Linux Standard Edition 2.1	VNC 3.3.3 (ESMPRO/ServerAgent Extension **に添付されています。**)
その他	OS **に標準添付または、**OS **標準より新しい** VNC

重要：

- 「DianaScope Agent」がインストールされている環境に ESMPRO/ServerAgent Extension をインストールすると、アップデートインストールとなり、置き換わります。また「ESMPRO/ServerAgent Extension」がインストールされている環境には、「DianaScope Agent」はインストールしないでください。

チェック：

- BMC コンフィグレーションを行うツール「MWA Agent」がインストールされている場合は、ESMPRO/ServerAgent Extension をインストールできません。「MWA Agent」をアンインストールしてください。
- GUI リモートコンソール機能は、Windows Server 2008 では正常に表示されないため使用できません。

ヒント：

- GUI リモートコンソール機能が Linux 上にインストールされているかどうかは、以下のコマンドで確認できます。
  rpm -qa |grep vnc-server

2.1.1 サーバマネージメントドライバ

OS が Linux の場合、ESMPRO/ServerAgent Extension を利用するためには、サーバマネージメントドライバをインストールする必要があります。

チェック：

- OpenIPMI ドライバがインストールされている場合は、サーバマネージメントドライバのインストールは不要です。
- サーバマネージメントドライバと OpenIPMI ドライバを同時に使用することはできません。

ヒント：

- OpenIPMI ドライバが、Linux 上にインストールされているかどうかは、以下のコマンドで確認できます。
  rpm -qa |gerp IPMI

2.1.1.1 サーバマネージメントドライバのインストール

EXPRESSBUILDER ver.5 以上をご利用の場合は、下記の手順でサーバマネージメントドライバを Linux 上にインストールすることができます。
必ず root 権限のあるユーザで実行してください。

チェック：

- EXPRESSBUILDERにサーバマネージメントドライバが格納されているディレクトリがない場合、または、EXPRESSBUILDERに格納されているサーバマネージメントドライバが使用中のカーネルバージョンに対応していない場合は、以下のサイトから、使用中の管理対象サーバとカーネルバージョンに対応したサーバマネージメントドライバをダウンロードしてください。
  http://www.express.nec.co.jp/linux/dload/esmpro/index.html
- 管理対象サーバが ft サーバの場合、サーバマネージメントドライバは初期インストールされています。

---

(1) 管理対象サーバに添付されている EXPRESSBUILDER を DVD ドライブに挿入し、マウントしてください。

(2) サーバマネージメントドライバが格納されているディレクトリへ移動してください。サーバマネージメントドライバは、「EXPRESSBUILDER のリビジョンを示すディレクトリ」/lnx/pp/svmdrv/に格納されています。

(3) インストールスクリプトを実行してください。

```
Sh ./rasinst.sh
```

(4) EXPRESSBUILDER を DVD ドライブから取り出して、管理対象サーバを再起動してください。
サーバマネージメントドライバは、OS 起動時にロードされます。

2.1.1.2 サーバマネージメントドライバのアンインストール

root 権限のあるユーザで実行してください。

(1) サーバマネージメントドライバがインストールされているかどうか、以下の rpm コマンドで確認してください。

```
rpm -q libnechwid
rpm -q libnechwmtr
rpm -q libnecipmi
rpm -q libnecsmbios
rpm -qa | grep necipmi15
rpm -qa | grep necrasconf
```

(2) (1)で確認した、インストールされているすべての rpm を削除してください。以下は libnechwid を削除する場合の例です。

```
rpm -e libnechwid
```

ヒント：

- 管理対象サーバによって、インストールされていない rpm もあります。
- necipmi15 と依存関係を持つ rpm がある場合は、合わせて削除して下さい。

2.2　管理対象サーバおよびネットワーク機器の注意事項

管理対象サーバおよびネットワーク機器について、特に注意していただきたい点を説明します。

2.2.1 BMCが標準LANポートを使用する装置の場合

・BMC が標準 LAN ポートを利用する管理対象サーバ上の OS で、標準 LAN ポートを Teaming 設定(複数のネットワークアダプタで冗長化/多重化を行う事)する場合
BMC が標準 LAN ポートを利用する管理対象サーバでは、BMC、System BIOS は Teaming に対応していません。AFT(Adapter Fault Tolerance)、ALB(Adaptive Load Balancing)を以下のように設定することで、Failover が発生しない間のみ、動作可能です。
ーALB(Adaptive Load Balancing)と同時に RLB(Receive Load Balancing)が設定される場合、RLB を無効に設定してください。(RLB を無効に設定できない場合は ESMPRO/ServerManager を使用できません。)
ーBMC コンフィグレーション情報で LAN1 に設定した IP アドレスおよび MAC アドレスを Teaming アドレス(Preferred Primary)に設定してください。
ーLAN2 のコンフィグレーションが可能な管理対象サーバであっても、管理対象サーバ上の BMC のコンフィグレーションで、LAN2 の設定を行わないでください。
ー管理対象サーバの OS が Linux で、bonding ドライバを利用して Teaming 設定を行う場合は、/etc/modprobe.conf または/etc/modules.conf ファイルの該当行に、以下のように **mode** と **primary** を設定してください。

```
options bondname mode=1 primary=eth0 miimon=100
```

ー管理対象サーバのOSがWindowsで、ESMPRO/ServerAgent Extensionをインストールする場合は、以下の記載を参照してください。
「付録 LANポートのTeaming設定時にESMPRO/ServerAgent Extensionを利用する場合の設定手順」- 1
また、RLB(Receive Load Balancing)設定やFEC(Fast Ether Channel)設定を使用する場合は、ESMPRO/ServerManager を使用できません。

2.2.2 BMCが専用LANポートを使用する装置の場合

・BMCが専用LANポート(管理用LANポート)を利用する管理対象サーバ上のOSで、ESMPRO/ServerAgent Extensionが利用するLANポートをTeaming 設定(複数のネットワークアダプタで冗長化/多重化を行う事)する場合は、以下の記載を参照してください。
「付録 LANポートのTeaming設定時にESMPRO/ServerAgent Extensionを利用する場合の設定手順」- 2

2.2.3 ゲートウェイ、通報先／管理PCのハードウェアを変更する場合

・管理 PC と管理対象サーバの間でゲートウェイを介す環境で、BMC コンフィグレーション設定後にゲートウェイを交換した場合、新しいゲートウェイの MAC アドレスを BMC に設定するために、BMC コンフィグレーションを再設定してください。
また、ゲートウェイを介さない環境では、通報先／管理 PC のハードウェアを変更した場合、新しい通報先／管理 PC の MAC アドレスを BMC に設定するために、BMC コンフィグレーションを再設定してください。

第3章　ESMPRO/ServerAgent Extensionのインストール

3.1　ESMPRO/ServerAgent Extensionのインストール(Windows)

管理対象サーバ上に以下の順序でインストールしてください。

(1) JRE のインストール
ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC コンフィグレーション機能だけを使用する場合は、JRE をインストールする必要はありません。

(2) GUI リモートコンソール機能のインストール
Windows のグラフィカルな画面を表示する GUI リモートコンソール機能を使用する場合にインストールしてください。

(3) ESMPRO/ServerAgent Extension のインストール
ESMPRO/ServerAgent Extension は、BMC コンフィグレーション機能と、ESMPRO/ServerManager と通信してリモート管理を実現する ESMPRO/ServerAgent Extension サービスの 2 つの機能から構成されています。
インストールする機能を選択できます。

(4) ESMPRO/ServerAgent Extension が使用する LAN ポートの設定
管理対象サーバ上の BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する場合に、この設定を行ってください。

3.1.1　インストールを始める前に

ESMPRO/ServerAgent Extension のインストールを始める前に、以下のことを確認してください。
・2.1「管理対象サーバ」に記載された管理対象サーバと ESMPRO/ServerAgent Extension の動作環境を満たしていること。
・Administrator 権限で Windows にログインしていること。

3.1.2　インストールメニューの起動

■　ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合

ESMPRO/ServerAgent Extension インストーラの以下のファイルを Web ブラウザで開いてください。インストールメニューが表示されます。

¥esmpro_sa_ex¥menu¥jp¥menu.html

チェック：
- インストールメニューは、Microsoft Internet Explorer で開いてください。

■　**EXPRESSBUILDER を使ってインストールする場合**

以下の手順でインストールメニューを起動してください。

(1) Windows が起動している管理対象サーバ上で、EXPRESSBUILDER を DVD ドライブにセットしてください。
Autorun 機能によりメニューが表示されます。

(2) 「ソフトウェアのセットアップ」ー「ESMPRO」ー「ESMPRO/ServerAgent Extension」の順にクリックしてください。ESMPRO/ServerAgent Extension のインストールメニューが表示されます。

3.1.3 JREのインストール

JRE をインストールします。
必ず 2.1 章で指定されたバージョンの JRE をインストールしてください。

(1) インストールメニューから「Java Runtime Environment (JRE)」のインストーラをクリックしてください。「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので「開く」ボタンをクリックしてください。
JRE のインストーラが起動します。

(2) インストーラの指示に従ってインストールしてください。

3.1.4 GUIリモートコンソール機能のインストール

GUI リモートコンソール機能をインストールします。
必ず 2.1 章で指定されたバージョンの GUI リモートコンソール機能をインストールしてください。

(1) インストールメニューから「GUI リモートコンソール機能」のインストーラをクリックしてください。「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので「開く」ボタンをクリックしてください。
インストーラが起動します。

(2) インストーラの指示に従ってインストールしてください。

チェック：

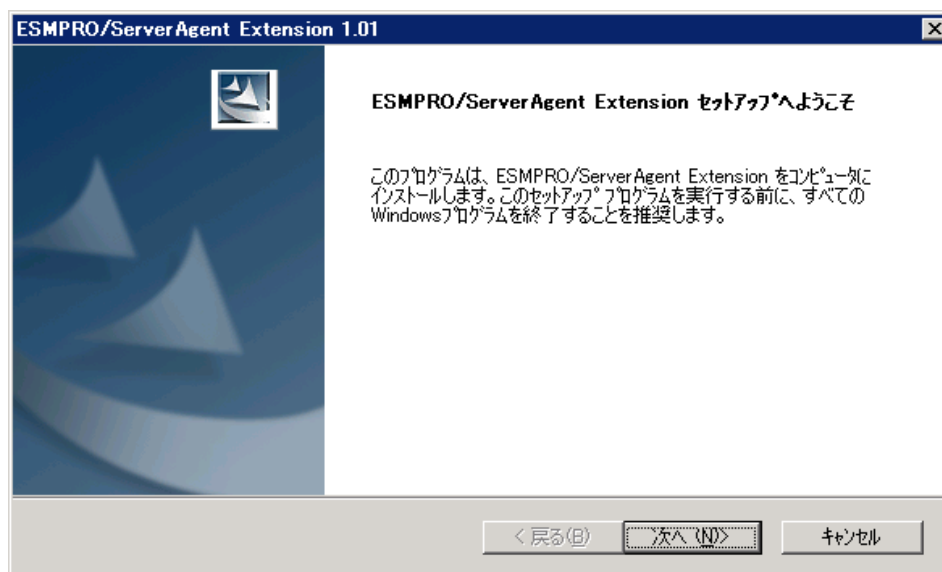
- GUI リモートコンソール機能は、Windows Server 2008 では正常に表示されないため使用できません。

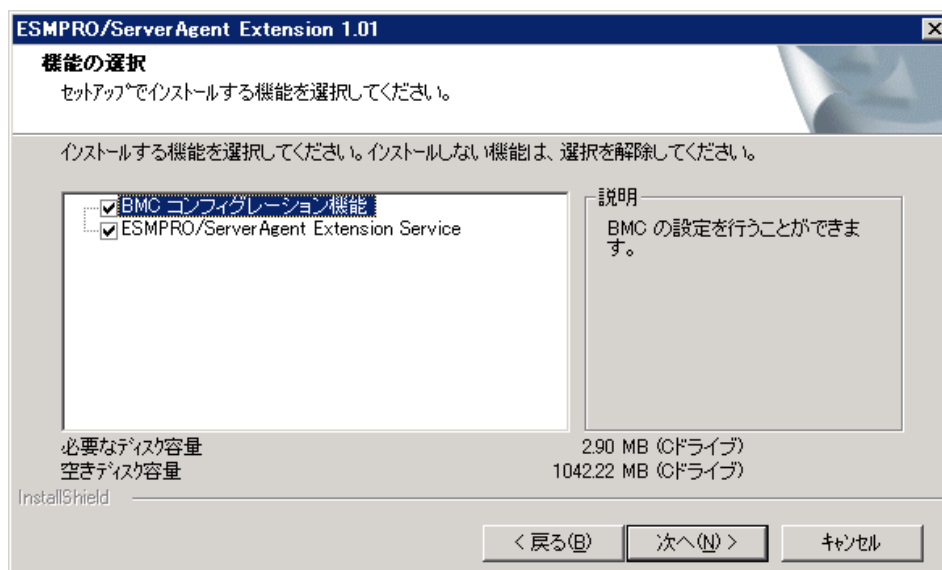
3.1.5 ESMPRO/ServerAgent Extensionのインストール

ESMPRO/ServerAgent Extension をインストールします。
以下のことを確認してからインストールしてください。

- Administrator 権限で Windows にログインしていること。
- ESMPRO/ServerAgent Extension サービスをインストールする場合は、2.1 章で指定されたバージョンの JRE がインストールされていること。

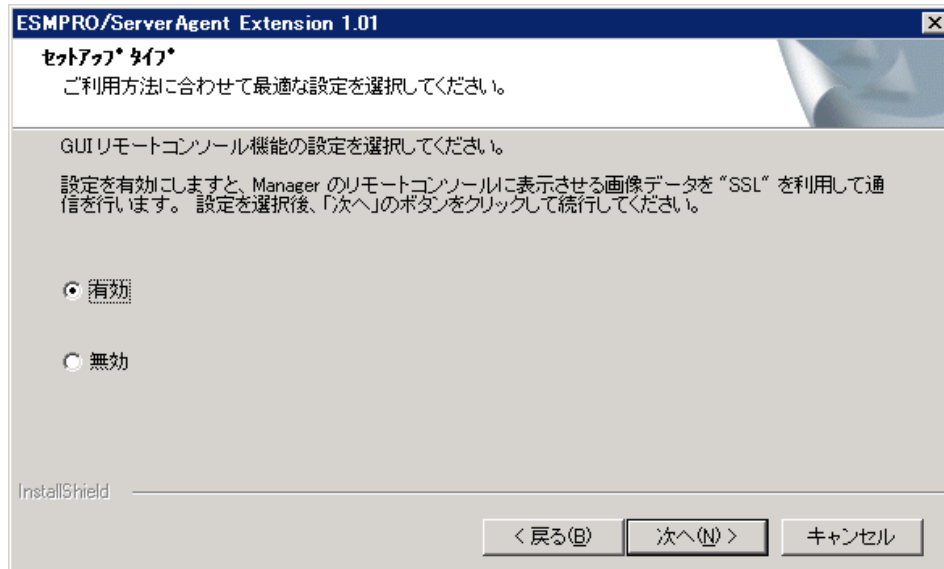
(1) インストールメニューから「ESMPRO/ServerAgent Extension」をクリックしてください。「ファイルのダウンロード」ダイアログボックスが表示されますので「開く」ボタンをクリックしてください。ESMPRO/ServerAgent Extension のインストーラが起動します。

(2) ESMPRO/ServerAgent Extension のインストーラが起動します。「次へ」ボタンをクリックしてください。

(3) インストール先のディレクトリ名を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

(4) インストールしたい機能を選択してください。
BMC コンフィグレーション機能は必ず選択してください。
選択後、「次へ」ボタンをクリックしてください。

ヒント：

- BMC コンフィグレーション機能の選択を解除すると次に進むことができません。

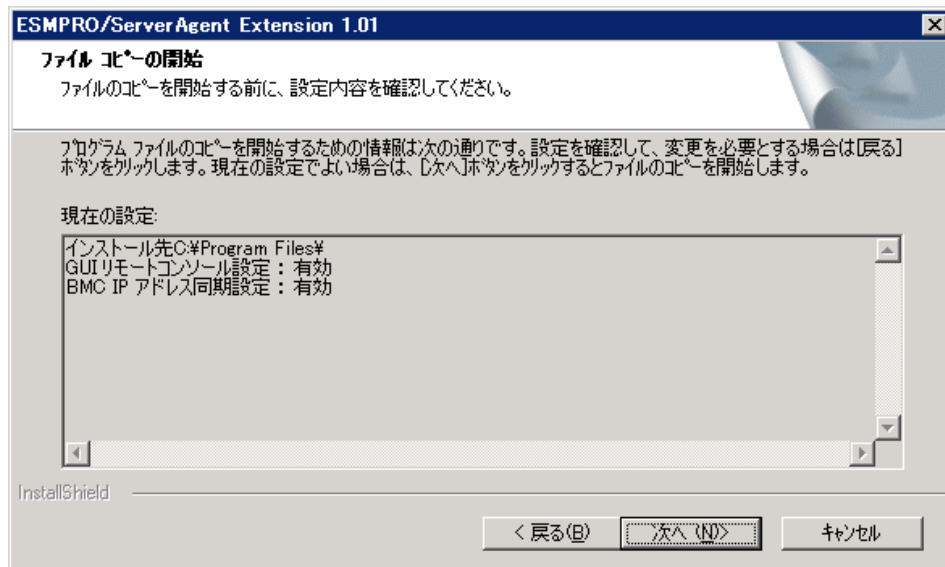
(5) 以下のダイアログボックスは、次の条件を満たしているときに表示されます。
・GUI リモートコンソール機能がインストールされている。
・ESMPRO/ServerAgent Extension サービスをインストールすることを選択した。

GUI リモートコンソール設定を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

ヒント：
- この項目はインストールした後で変更することもできます。

(6) 以下のダイアログボックスは、次の条件を満たしているときに表示されます。
・BMC が標準 LAN ポートを使用する管理対象サーバである。
・ESMPRO/ServerAgent Extension サービスをインストールすることを選択した。

BMC IP アドレス同期設定を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

ヒント：
- この項目はインストールした後で変更することもできます。

(7) 設定した内容を確認し、「次へ」ボタンをクリックしてください。インストールが開始されます。

インストールが完了すると、ESMPRO/ServerAgent Extension サービスをインストールした場合はサービスが開始し、使用できるようになります。

3.1.6 ESMPRO/ServerAgent Extension 設定画面の起動確認

インストール完了後、以下の方法で ESMPRO/ServerAgent Extension のメインダイアログボックスを起動できます。

・Windows のスタートメニューから、「ESMPRO ServerAgent Extension」－「ESMPRO ServerAgent Extension」をクリックする。

このダイアログボックスから ESMPRO/ServerAgent Extension の設定や BMC コンフィグレーションなどを実行できます。（BMC の種類により、ダイアログボックスから実行できる機能が一部異なります。）

以下は BMC が標準搭載の LAN ポートを使用する管理対象サーバの場合の画面例です。

ヒント：

- 以下の機能は、ESMPRO/ServerAgent Extension サービスが利用できない場合は操作できません。
  ・「Agent IP アドレスの選択」
  ・「GUI リモートコンソール設定」
  ・「BMC IP アドレス同期設定」

3.1.7 ESMPRO/ServerAgent Extensionが使用するLANポートの設定

管理対象サーバ上の BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する場合に、この設定を行ってください。

(1) Windows のスタートメニューから、「ESMPRO ServerAgent Extension」―「ESMPRO ServerAgent Extension」をクリックしてください。

(2) ESMPRO/ServerAgent Extension のメインダイアログボックスで「Agent IP アドレスの選択」ボタンをクリックしてください。

(3) OS の IP アドレスを選択してください。

チェック：

- ESMPRO/ServerAgent Extension の使用を開始した後に、使用する LAN ポートを変更したい場合や、管理対象サーバに新たに LAN ボードを挿入した場合は、再度この設定を行ってください。設定変更後は ESMPRO/ServerManager からの接続チェックを再実行してください。

ヒント：

- BMC の IP アドレスの設定は、コンフィグレーション情報設定から行ってください。

3.2 ESMPRO/ServerAgent Extensionのアンインストール (Windows)

アンインストールする場合は、以下の順序で行ってください。

(1) ESMPRO/ServerAgent Extension のアンインストール
ESMPRO/ServerAgent Extension のダイアログボックスが起動していないことを確認後、アンインストールしてください。

(2) GUI リモートコンソール機能のアンインストール

(2)-(a) Win VNC サービスのアンインストール
Windows のスタートメニューから [VNC]-[Administrative Tool]-[Remove Win VNC Service]の順にクリックしてください。

(2)-(b) Win VNC のアンインストール

(3) JRE のアンインストール

(2)-(a)以外は、Windowsの「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」からアンインストールします。それぞれのモジュール名を選択し、「削除」ボタンをクリックしてください。表示される指示に従ってアンインストールしてください。

3.3 JREのアップデート (Windows)

既に ESMPRO/ServerAgent Extension がインストールされている場合、以下の手順で JRE をアップデートしてください。

(1) JRE をインストールしてください。

重要：
- ESMPRO/ServerAgent Extension のアップデートインストールが終了するまでは、旧バージョンの JRE をアンインストールしないでください。

(2) ESMPRO/ServerAgent Extension をアップデートインストールしてください。

3.4 ESMPRO/ServerAgent Extensionのインストール(Linux)
管理対象サーバ上に以下の順序でインストールしてください。

(1) JRE のインストール
　ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC コンフィグレーション機能だけを使用する場合は、JRE をインストールする必要はありません。

(2) インストーラのコピーと展開
　インストールの前に、インストーラを管理対象サーバのハードディスクにコピーし、展開します。

(3) ESMPRO/ServerAgent Extension のインストール
　GUI リモートコンソール機能、ESMPRO/ServerAgent Extension を同時にインストールできます。

(4) ESMPRO/ServerAgent Extension が使用する LAN ポートの設定
　管理対象サーバ上の BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する場合に、この設定を行ってください。

3.4.1 インストールを始める前に
以下のことを確認してください。
・2.1「管理対象サーバ」に記載された管理対象サーバと ESMPRO/ServerAgent Extension の動作環境を満たしていること。
・root ユーザでログインするか、su コマンドにより root 権限を得ていること。

チェック：
- ESMPRO/ServerAgent Extension インストーラの格納場所は下記の通りです。
  ダウンロードしたモジュールを使ってインストールする場合：/esmpro_sa_ex
  EXPRESSBUILDER の場合：
  「EXPRESSBUILDER のリビジョンを示すディレクトリ」/lnx/pp/esmpro_sa_ex
  (例：001/lnx/pp/esmpro_sa_ex)

3.4.2 JREのインストール
JRE をインストールします。
JRE のインストーラ(Linux)は ESMPRO/ServerAgent Extension インストーラの以下のディレクトリに格納されています。
　/esmpro_sa_ex/jre_x

この説明の中の入力例に関わらず、必ず 2.1 章で指定されたバージョンの JRE をインストールしてください。

(1) JRE インストーラを任意のディレクトリにコピーしてください。
　以下は EXPRESSBUILDER から/usr/local/bin にコピーする場合の例です。（OS の種類によってマウント先が異なる場合があります。適切なマウント先を指定してください。）

```
cp /mnt/cdrom/esmpro_sa_ex/jre_x/jre-1_5_0_13-linux-i586-rpm.bin /usr/local/bin
```

(2) JRE インストーラをコピーしたディレクトリに移動して下さい。
以下は /usr/local/bin にコピーする場合の例です。

```
cd /usr/local/bin
```

(3) JRE をインストールしてください。JRE は /usr/java 下のバージョン毎のディレクトリにインストールされます。

```
./jre-1_5_0_13-linux-i586-rpm.bin
```

3.4.3 インストーラのコピーと展開

インストーラ(ESMPRO/ServerAgent Extension インストーラの/esmpro_sa_ex/agt_x ディレクトリに格納されているファイル)を、管理対象サーバのハードディスクの/usr/local/bin/ESMPRO/ServerAgent Extension ディレクトリにコピーします。

(1) /usr/local/bin 下に/ESMPRO/ServerAgent Extension ディレクトリを作成します。

```
mkdir -p /usr/local/bin/ESMPRO/ServerAgentExtension
```

(2) ESMPRO/ServerAgent Extension インストーラを/usr/local/bin/ESMPRO/ServerAgent Extension にコピーしてください。
以下は EXPRESSBUILDER からコピーする場合の例です。(OS の種類によってマウント先が異なる場合があります。適切なマウント先を指定してください。)

```
cp -r /mnt/cdrom/esmpro_sa_ex/agt_x/ /usr/local/bin/ESMPRO/ServerAgentExtension
```

(3) インストーラをコピーしたディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ESMPRO/ServerAgentExtension/
```

(4) インストーラを展開してください。

```
tar xzvf EsmproSaEx-N.NN-x.tgz
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

3.4.4 ESMPRO/ServerAgent Extensionのインストール

(1) インストーラを展開したディレクトリに移動してください。

```
cd /usr/local/bin/ESMPRO/ServerAgentExtension/EsmproSaEx-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

(2) インストール用シェルを実行してください。

```
./EsmproSaEx-N.NN-x.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

(3) ESMPRO/ServerAgent Extension BMC コンフィグレーション機能のインストール確認が表示されます。必ず「yes」を入力し、Enter キーを押下してください。
BMC コンフィグレーション機能は/opt/nec/esmpro_sa_ex_sysman 下にインストールされます。

(4) GUI リモートコンソール機能のインストール確認が表示されます。
Linux のグラフィカルな画面を表示する GUI リモートコンソール機能を使用する場合は、「yes」を入力し、Enter キーを押下してください。

(5) ESMPRO/ServerAgent Extension サービスのインストール確認が表示されます。
ESMPRO/ServerManager と通信してリモート管理を実現するための ESMPRO/ServerAgent Extension サービスをインストールする場合は、「yes」を入力し、Enter キーを押下してください。
ESMPRO/ServerAgent Extension サービスは/opt/nec/esmpro_sa_ex_agent 下にインストールされます。
「no」を入力した場合、インストールはここで終了します。

(6) Linux 起動後のグラフィカルな画面を ESMPRO/ServerManager のリモートコンソールに表示する、GUI リモートコンソール設定について、SSL 有効／無効の確認が表示されます。「yes」を入力し、Enter キーを押下してください。
この設定を有効にすると、ESMPRO/ServerAgent Extension は SSL を利用して、グラフィカルな画面データを安全に ESMPRO/ServerManager サーバに送信します。

(7) 管理対象サーバ上の BMC が標準搭載の LAN ポートを使用する場合は、BMC IP アドレス同期機能の有効／無効の確認が表示されます。有効にする場合は「yes」、無効にする場合は「no」を入力し、Enter キーを押下してください。
BMC IP アドレス同期を有効にすると、ESMPRO/ServerAgent Extension サービスは、OS 上に設定されている IP アドレスを BMC 上に設定します。

ヒント：
- この項目はインストールした後で変更することもできます。

インストールが完了すると以下のメッセージが表示されます。
「ESMPRO/ServerAgent Extension のインストールが完了しました。」
インストールを完了すると、ESMPRO/ServerAgent Extension のサービスと GUI リモートコンソール機能のサービスを開始します。

3.4.5 ESMPRO/ServerAgent Extension 設定画面の起動確認

インストール完了後、以下の方法で ESMPRO/ServerAgent Extension の設定画面を起動できます。

日本語を表示できるターミナルの場合：

```
kon
/opt/nec/esmpro_sa_ex_sysman/agentconf -ja
```

日本語を表示できないターミナルの場合：

```
/opt/nec/esmpro_sa_ex_sysman/agentconf
```

この設定画面から ESMPRO/ServerAgent Extension の設定や BMC コンフィグレーションなどを実行できます。

3.4.6 ESMPRO/ServerAgent Extensionが使用するLANポートの設定

管理対象サーバ上の BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する場合に、この設定を行ってください。

ヒント：

- BMC が標準搭載の LAN ポートを使用する管理対象サーバの場合は、ESMPRO/ServerAgent Extension は BMC と同じ LAN ポートを使用するため、ESMPRO/ServerAgent Extension が使用する LAN ポートを個別に設定する必要はありません。

(1) ESMPRO/ServerAgent Extension の設定画面を起動してください。

(2) 「Agent IP アドレスの選択」を選択してください。

(3) OS の IP アドレスを選択してください。

3.5 ESMPRO/ServerAgent Extensionのアンインストール(Linux)

アンインストールは、root 権限を持ったユーザアカウントでなければ実行できません。root ユーザでログインしなおすか、su コマンドにより root 権限を得てから作業を行ってください。

以下の順序で行ってください。

(1) ESMPRO/ServerAgent Extension のアンインストール

(2) JRE のアンインストール

3.5.1 ESMPRO/ServerAgent Extensionのアンインストール

(1) インストーラをコピーしたディレクトリに移動します。

```
cd /usr/local/bin/ESMPRO/ServerAgentExtension/EsmproSaEx-N.NN-x
```

ディレクトリ名の「N.NN」で示した部分は、バージョン毎に異なります。

(2) アンインストール用のシェルを実行します。

```
./EsmproSaEx-N.NN-x.sh
```

ファイル名の「N.NN」で示した部分はバージョン毎に異なります。

(3) ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC コンフィグレーション機能のアンインストール確認が表示されます。「delete」を入力し、Enter キーを押下してください。

(4) ESMPRO/ServerAgent Extension のアンインストール確認が表示されます。「delete」を入力し、Enter キーを押下してください。

(5) GUI リモートコンソール機能のアンインストール確認が表示されます。「yes」を入力し、Enter キーを押下してください。

アンインストールが完了すると以下のメッセージが表示されます。
「ESMPRO/ServerAgent Extension サービスのアンインストールが完了しました。」

3.5.2 JREのアンインストール

JRE をアンインストールします。
以下は、JRE 5.0 Update13 をアンインストールする場合の例です。

```
rpm –e jre-1.5.0_13-fcs
```

3.6 JREのアップデート(Linux)

既に ESMPRO/ServerAgent Extension がインストールされている場合、以下の手順で JRE をアップデートしてください。
ESMPRO/ServerAgent Extension を利用中に、JRE を JRE5.0 Update13 にアップデートする場合の例を示します。

(1) ESMPRO/ServerAgent Extension を停止します。

```
/etc/rc.d/init.d/dianascopeagent stop
```

(2) JRE をアップデートします。

```
rpm -Uvh ./jre-1_5_0_13-linux-i586-rpm.bin
```

(3) ESMPRO/ServerAgent Extension を開始します。

```
/etc/rc.d/init.d/dianascopeagent start
```

第4章　BMCコンフィグレーション情報項目

4.1　BMCコンフィグレーション項目

以下に、BMC の全てのコンフィグレーション項目を示します。より詳細な設定を行う場合に参照してください。
入力必須の項目以外は、既定値のまま使用できます。

Windows 版の ESMPRO/ServerAgent Extension の画面に従って説明します。

(1) 共通

項目名	意味	既定値
管理情報	管理対象サーバ側の管理情報の設定です。	
モデル名	管理対象サーバのモデル名を表示します。(管理対象サーバの FRU 情報に格納されている情報を表示します。正式な製品名とは異なる場合があります。)	--
コメント 1,2	コメントを設定します。 （リモートでの参照はできません。英数字のみ入力可能です。 空白文字は入力できません。）	空白
BMC共通	BMC 共通の設定です。	
コンピュータ名	ESMPRO/ServerManager 上で管理対象サーバを管理する任意の名前（サーバ名）を入力します。各管理対象サーバに異なる名前をつけてください。	host1
認証キー	ESMPRO/ServerManager と BMC との接続用認証キーを設定します。	guest
コミュニティ名	BMC が送信する通報(SNMP トラップ)のコミュニティ名を設定します。*1	public

通報 *2	通報の有効／無効を選択します。 有効を設定すると、通報手順、通報レベルおよび各通報先の有効／無効に従って通報されます。無効を設定すると、すべての通報先に対して通報されません。	有効
通報手順	「全通報先」と「1 つの通報先」の、いずれかを選択します。 「全通報先」が設定された場合は、通報設定が有効な全メディアへ、LAN 経由、モデム経由、ページャの順で通報します。「 1 つの通報先」が設定された場合、1 箇所の通報先メディアへの通報が成功すると、優先順位の低いメディアへは通報しません。 優先順位は LAN 経由がもっとも高く、次いで、モデム経由、ページャの順になります。	1 つの通報先
通報応答確認	通報応答確認の有効／無効を選択します。 有効を設定すると、通報送信後、通報先からの応答を確認します。	有効
通報レベル *3	管理対象サーバ上で発生したイベントの重要度に応じて通報するか否かのレベルを設定します。	レベル 4
リモート制御 (LAN1)	LAN1 経由でのリモート管理の有効／無効を選択します。無効に設定した場合は ESMPRO/ServerManager から LAN1 経由接続できません。管理対象サーバからの LAN1 経由通報も送信されません。	有効
リモート制御 (LAN2)	LAN2 経由でのリモート管理の有効／無効を選択します。無効に設定した場合は ESMPRO/ServerManager から LAN2 経由接続できません。管理対象サーバからの LAN2 経由通報も送信されません。 管理対象サーバが ESMPRO/ServerManager との LAN2 経由の通信をサポートしている場合のみ表示されます。	有効
リモート制御 (WAN／ダイレクト)	モデム接続/ダイレクト接続でのリモート管理の有効／無効を選択します。無効に設定した場合は ESMPRO/ServerManager からモデム接続／ダイレクト接続できません。	有効
リダイレクション (LAN)	BIOS による LAN 経由のリモートコンソールの有効／無効を選択します。無効を選択した場合は、LAN 経由のリモートコンソール機能は使用できません。	有効
リダイレクション (WAN／ダイレクト)	BIOS によるモデム経由/ダイレクト経由のリモートコンソールの有効／無効を選択します。無効を選択した場合は、モデム接続/ダイレクト接続でのリモートコンソール機能は使用できません。	有効

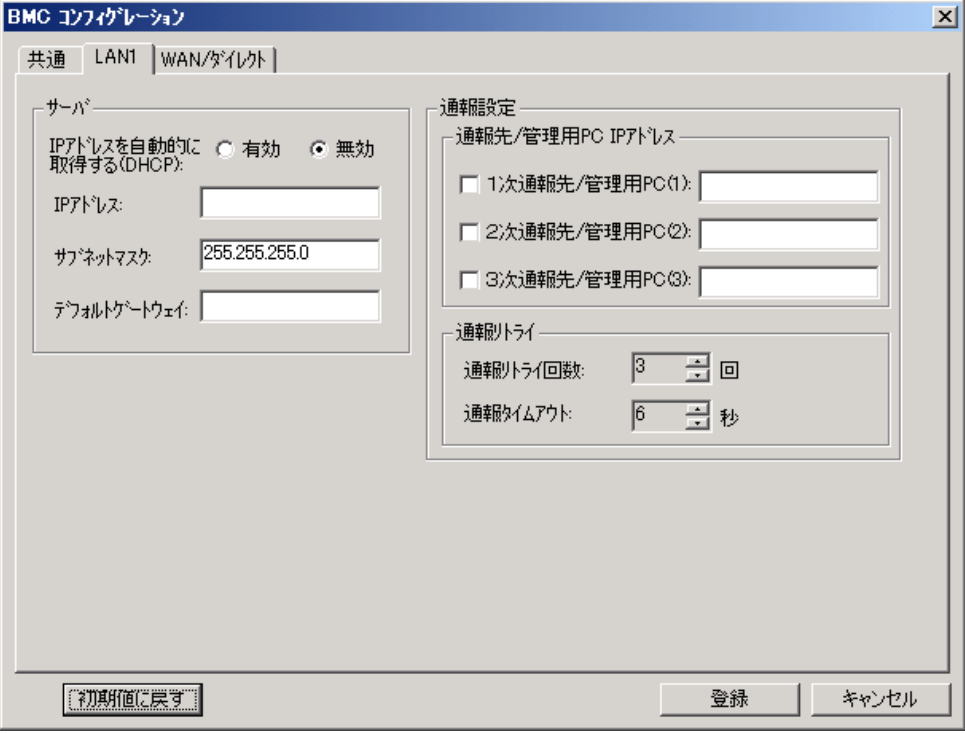
*1:コミュニティ名を変更する場合、LAN 接続経由通報の通報先の PC で、そのコミュニティ名を受け付けられるように設定してください。英数字のみ入力可能です。
*2:BMCの通報動作については 4.2「BMC通報について」を参照してください。
*3:通報レベルは以下のとおり。

通報レベル	通報対象イベント重要度
1	回復不能
2	回復不能、異常
3	回復不能、異常、警告
4	回復不能、異常、警告、回復
5	回復不能、異常、警告、回復、情報
6	回復不能、異常、警告、回復、情報、監視

重要：

- 管理対象サーバのシリアルポート 2 を UPS などの機器接続に使用する場合は、以下の 3 つを無効にしてください。管理対象サーバが SOL 対応サーバの場合は、このとき LAN 経由のリモートコンソール接続は使用できなくなります。
  ・「リモート制御(WAN/ダイレクト)」
  ・「リダイレクション(LAN)」
  ・「リダイレクション(WAN/ダイレクト)」
  管理対象サーバが SOL 対応サーバかどうかは「ESMPRO Manager Ver.5 セットアップガイド」で確認してください。

ヒント：

- 管理対象サーバが SOL 対応サーバの場合に「リダイレクション(LAN)」項目を有効にすると、コンフィグレーション情報を登録する際に、LAN 経由のリモートコンソールのために必要な以下の項目が自動的に変更されます。
  ・「共通」タブページの「リダイレクション(WAN/ダイレクト)」項目：有効
  ・「WAN/ダイレクト」タブページの「フロー制御」項目：RTS/CTS

(2) **通報順位**

管理対象サーバの BMC が標準の LAN2 ポート経由の通信をサポートしている場合に、ESMPRO/ServerAgent Extension の「共通」タブページで「通報順位」ボタンをクリックすると表示されます。

項目名	意味	既定値
LAN1/LAN2 優先順位	LAN1 経由の通報を優先するか、LAN2 経由の通報を優先するかを選択します。	LAN1
LAN/通報先 優先順位	同じ LAN 経由の通報を優先するか、通報先を優先するかを選択します。「LAN 優先」を選択した場合、同じ LAN 経由の全通報先への通報を行ってから、もう一方の LAN 経由の通報を行います。「通報先優先」を選択した場合、LAN1、LAN2 を交互に経由して優先順位の高い通報先から順に通報します。	LAN 優先

(3) LAN1、LAN2

「LAN2」タブページは管理対象サーバが ESMPRO/ServerManager との LAN2 経由の通信をサポートされている場合に表示されます。

重要：

- LAN 経由の通信を使用しない場合は、「LAN1」「LAN2」タブの各項目を既定値から変更しないでください。

項目名	意味	既定値
サーバ	管理対象サーバ側で使用するネットワーク設定です。	
IP アドレスを自動的に取得する(DHCP)	管理対象サーバの BMC が DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する機能の有効／無効を指定してください。有効を指定すると、登録後に「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の項目に BMC が DHCP サーバから取得した値が設定されます。 BMC でこの機能がサポートされている場合に設定できます。	ブレードサーバの場合：有効 その他のサーバの場合：無効
IP アドレス	管理対象サーバの BMC の IP アドレスを設定します。	0.0.0.0 または空白
サブネットマスク	管理対象サーバのサブネットマスクを設定します。	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	管理対象サーバのデフォルトゲートウェイの IP アドレスを設定します。 この項目を設定した場合は、ゲートウェイをネットワークに接続した状態でコンフィグレーション情報を登録してください。	空白
n 次通報先／管理用 PC(n)	この管理対象サーバを管理する ESMPRO/ServerManager サーバ、および、管理対象サーバ側から LAN 経由通報する場合の通報先の設定です。	
通報（チェックボックス）	各通報先への通報の有効／無効を設定します。	無効
IP アドレス	ESMPRO/ServerManager サーバまたは通報先の IP アドレスを設定します。 この管理対象サーバを管理する ESMPRO/ServerManager サーバの IP アドレスを 1 次通報先／管理用 PC(1)に設定してください。 この項目に同一ネットワーク上にある IP アドレスを設定した場合は、通報先/管理用 PC をネットワークに接続した状態でコンフィグレーション情報を登録してください。	0.0.0.0
通報リトライ	通報リトライの設定です。	
通報リトライ回数	通報リトライ回数を設定します	3 回
通報タイムアウト	通報タイムアウト値(秒)を設定します。	6 秒

チェック：

- 「IP アドレスを自動的に取得する(DHCP)」機能は BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する管理対象サーバでサポートされています。
- アドバンスドリモートマネージメントカードまたは ft リモートマネージメントカードを搭載している管理対象サーバは、IP アドレス自動取得設定を行っても、DHCP サーバからの IP アドレス入手を即座に開始しない場合があります。その場合は、管理対象サーバを AC-OFF 後、AC-ON を行ってください。

(4) WAN/ダイレクト

項目名	意味	既定値
シリアルポート	管理対象サーバ側で使用するシリアルポートの設定です。	
使用モード *1	モデム接続時は「WAN(モデム)」を、ダイレクト接続時は「ダイレクト」を選択してください。	ダイレクト
ボーレート *1	ボーレートを選択します。	19.2Kbps
フロー制御 *1	フロー制御方法を選択します。 必ず"RTS/CTS"を選択してください。	なし
モデム	管理対象サーバ側で使用するモデムの設定です。	
ダイヤルモード	使用する回線に応じて「パルス」または「トーン」を選択してください。	パルス
初期化コマンド	モデムを使用する場合の初期化コマンドを設定します。 通常は初期値のまま指定してください。	ATE1Q0V1X4&D2&C1S0=0
ハングアップコマンド	回線を切断する場合のコマンドを設定します。	ATH
DTR ハングアップ	DTR 信号と連動して回線を切断します。	有効
エスケープコード	通信モードを「オンラインモード」から「オフラインモード」に変更する場合のコマンドを設定します。	+

*1 BIOS の設定と連動する項目です。

(5) WAN(通報設定)

ESMPRO/ServerAgent Extension の「WAN／ダイレクト」タブページで「通報設定」ボタンをクリックすると表示されます。

項目名	意味	既定値
PPP サーバ n 次通報先	管理対象サーバの BMC から PPP 接続する通報先を設定します。	
通報（チェックボックス）	各通報先の有効／無効を設定します。	無効
電話番号	PPP 接続先の電話番号を設定します。	空白
ユーザ ID	PPP 接続する際のユーザ ID を設定します。	guest
パスワード	PPP 接続する際のパスワードを設定します。	guest
ドメイン	PPP 接続する際のドメイン名を設定します。PPP サーバ側の設定で必要な場合のみ設定してください。	空白
通報先 IP アドレス n 次通報先	モデム経由通報時の、PPP 接続後に通報する通報先管理 PC の IP アドレスを設定します。 LAN 情報の設定画面の 1～3 次通報先/管理用 PC(1～3)IP アドレスを指定してください。	0.0.0.0
ダイヤルリトライ	モデム経由通報時のダイヤルリトライ設定	
ダイヤルリトライ回数	ダイヤルリトライ回数を設定します。 指定範囲 0～7	3
ダイヤル間隔	ダイヤルリトライする間隔(秒)を設定します。 設定範囲 60 秒～240 秒	60
通報リトライ	モデム経由通報時の通報リトライ設定	
通報リトライ回数	通報リトライ回数を設定します。 指定範囲 0～7	3
通報タイムアウト	通報タイムアウト値(秒)を設定します。 設定範囲 3 秒～30 秒	6

(6) **ページャ**

項目名	意味	既定値
通報先 n 次通報先	管理対象サーバの BMC からページャ通報する通報先を設定します。	
通報（チェックボックス）	各通報先の有効／無効を設定します。	無効
電話番号	ページャの電話番号を設定します。	空白
メッセージ	管理対象サーバの BMC からページャへ通報するメッセージの設定です。	
ページャメッセージ	管理対象サーバの BMC からページャへ送信するメッセージを設定します。	空白
ガイドメッセージ待ち時間	ページャセンタへダイヤル後、メッセージを送信するまでの待ち時間(秒)を設定します。設定範囲 0～30 秒。	20

ヒント：

- 「WAN（通報設定）」画面でのダイヤルリトライおよび通報リトライの設定が、ページャ通報にも使用されます。
- EXPRESSSCOPE エンジンシリーズを搭載している管理対象サーバの場合は、ページャ通報はサポートされません。

4.2 BMC通報について

BMC コンフィグレーション項目の「通報」を有効にすると、指定された「通報レベル」のイベントが発生したときに、BMC が指定された「通報先」に対して直接通報を行います。
通報先に ESMPRO/ServerManager または ESMPRO/ServerManager 連携機能がインストールされていると、BMC からの通報が ESMPRO の AlertManager に登録されます。

BMC からの通報は、管理対象サーバに ESMPRO/ServerAgent がインストールされているかどうかによって動作が異なります。

(1) ESMPRO/ServerAgent がインストールされている場合
BMC は管理対象サーバの OS が起動していない状態のときに、指定された「通報レベル」のイベントが発生すると、通報を行います。
OS が起動し、ESMPRO/ServerAgent が起動すると、ESMPRO/ServerAgent がイベント発生時の通報処理を行うため、BMC は通報先への通報を行いません。

(2) ESMPRO/ServerAgent がインストールされていない場合
BMC は、OS の状態に関わらず、指定された「通報レベル」のイベントが発生すると、常に通報先に対して通報を行います。

4.3 ESMPRO/ServerAgent Extensionを使ってコンフィグレーションする(LAN接続)

ここでは、Windows 版の ESMPRO/ServerAgent Extension を使って、LAN 経由で管理対象サーバをリモート管理するためのコンフィグレーション手順を説明します。

(1) 管理対象サーバで、Windows のスタートメニューから ESMPRO/ServerAgent Extension を起動してください。

(2) ESMPRO/ServerAgent Extension のメインダイアログボックスが表示されます。
「コンフィグレーション情報設定」ボタンをクリックしてください。

以下は管理対象サーバの BMC が標準搭載の LAN ポートを使用する場合の画面例です。

(3) 「BMC コンフィグレーション」ダイアログボックスが表示されます。
「共通」タブページの項目を設定してください。

以下の項目を必ず設定してください。その他の項目は既定値のまま使用できます。
・「コンピュータ名」
管理対象サーバ毎に異なる名前を設定してください。
・「認証キー」

画面は設定例です。

ヒント：

- 管理対象サーバが SOL 対応サーバの場合に「リダイレクション(LAN)」項目を有効にすると、コンフィグレーション情報を登録する際に、LAN 経由のリモートコンソールのために必要な以下の項目が自動的に変更されます。
  ・「共通」タブページの「リダイレクション(WAN/ダイレクト)」項目：有効
  ・「WAN/ダイレクト」タブページの「フロー制御」項目：RTS/CTS

(4) 「LAN1」タブページ上の項目を設定してください。BMC の LAN1 について設定します。以下の項目を設定してください。その他の項目は既定値のまま使用できます。

・「IP アドレスを自動的に取得する(DHCP)」
管理対象サーバの BMC が DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する機能の有効／無効を指定してください。有効を指定すると、登録後に「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の項目に BMC が DHCP サーバから取得した値が設定されます。
BMC がこの機能をサポートしている場合に有効に設定できます。
・「IP アドレス」
管理対象サーバ上の BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する場合、専用 LAN ポート用の IP アドレスを入力してください。
管理対象サーバ上の BMC が標準搭載の LAN ポートを使用する場合、管理対象サーバの OS 上の設定と必ず一致させてください。
・「サブネットマスク」
設定した IP アドレスのサブネットマスクを入力してください。
・「デフォルトゲートウェイ」
ESMPRO/ServerManager サーバと管理対象サーバの間でゲートウェイを介す場合、入力してください。
・「1 次通報先/管理用 PC (1)」
ESMPRO/ServerManager サーバの IP アドレスを入力してください。

画面は設定例です。

ヒント：

- 「LAN2」タブページは管理対象サーバの BMC が LAN2 経由の通信をサポートしている場合だけ表示されます。ESMPRO/ServerManager と LAN2 経由でも通信したい場合は、「LAN2」タブページも同様に設定してください。

(5) 「LAN1」または「LAN2」タブページで「デフォルトゲートウェイ」や同一ネットワーク上に存在する「通報先／管理用 PC」を設定した場合は、ゲートウェイや通報先／管理用 PC がネットワークに接続されていることを確認してください。

(6) 「登録」ボタンをクリックしてください。
コンフィグレーション情報が BMC に設定されます。また、ネットワーク接続されているデフォルトゲートウェイや通報先の MAC アドレスが BMC に設定されます。

第5章　注意事項

5.1　ESMPRO/ServerAgent Extensionのインストールについて

- ESMPRO/ServerAgent Extension (Windows, Linux 共)は、現在インストールされているバージョンから古いバージョンへダウングレードできません。古いバージョンを使用する場合は、一旦アンインストールしてから、再度インストールしてください。但し、アンインストールすると登録済みの情報はすべて削除されますのでご注意ください。
- MWAAgent と ESMPRO/ServerAgent Extension を同じ装置にインストールしないでください。
- ESMPRO/ServerAgent Extension がインストールされている装置に、DianaScope Agent をインストールしないでください。
- ESMPRO/ServerAgent Extension (Windows)を CD-ROM 等の媒体上のインストーラを使用してアップグレードするときに、ディスクを要求するメッセージが表示されて、アップグレードできない場合があります。この場合、CD-ROM 等の媒体からハードディスク上にインストーラをコピーしてからアップグレードしてください。

5.2　Windowsファイアウォールについて

管理対象サーバの Windows ファイアウォールが有効になっているために、正しく動作できないことがあります。
この場合、管理対象サーバ側で以下の設定を行ってください。

(1) Windows の「コントロールパネル」から「Windows ファイアウォール」を起動します。

(2) 「例外」タブの「ポートの追加」を選択します。

(3) 以下の設定を追加します。

名前：　任意の名前
ポート番号：　追加したいポート番号
ESMPRO/ServerManager と通信できない場合：
47120～47129
Windows 起動後のグラフィカルなリモートコンソールが表示されない場合:
GUI リモートコンソール設定が有効の場合：47130
GUI リモートコンソール設定が無効の場合： 5900
TCP/UDP：　TCP

5.3　BMCコンフィグレーションについて

5.3.1　BMCコンフィグレーションを行うツールについて

BMC コンフィグレーション情報を設定するツールのうち、ESMPRO/ServerAgent Extension のセットアップでは使用できないものがあります。
・MWA Agent は使用できません。
・管理対象サーバ上で、EXPRESSBUILDER から起動して実行する「システムマネージメント機能」は、同じ EXPRESSBUILDER に ESMPRO/ServerAgent Extension が格納されている場合のみ使用できます。
・EXPRESSBUILDER のコンソールレス機能は、同じ EXPRESSBUILDER に ESMPRO/ServerAgent Extension が格納されている場合のみ使用できます。

5.3.2 通報先PCを変更する場合

通報先である通報先 PC が変更された場合は、管理対象サーバ上の BMC が通報先を認識できない場合があります。通報先 PC の IP アドレスが変わらない場合も、管理対象サーバ上の BMC コンフィグレーションを再設定してください。

5.3.3 ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC IP アドレス同期機能について

ESMPRO/ServerAgent Extension は、BMC が標準 LAN ポートを使用する管理対象サーバの場合に、OS の起動時に OS 上に設定されている IP アドレスを BMC に自動設定する機能を持っています。以下の場合に 、IP アドレスの競合/重複設定という問題が発生する可能性があります。

・DHCP 環境で管理対象サーバに常に同じ IP アドレスが割り振られる設定になっていない状態で、上記 BMC IP アドレス同期機能が働くと、BMC は OS シャットダウン後も OS 起動時に割り振られた IP アドレスを使い続けますので、DHCP サーバ側では OS 側がリリースしたはずの IP アドレスを再利用することができません。再利用した場合は IP アドレスの競合が発生します。
・管理対象サーバがクラスタ構成になっている環境で、ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC IP アドレス同期機能が働くと、クラスタ構成の為の論理的な IP アドレスが BMC に設定され、IP アドレスの重複設定が発生する可能性があります。

上記の問題は BMC が管理対象サーバの標準 LAN ポートを共用していることが原因で発生する問題です。BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する場合では問題は発生しません。
本問題は、BMC の IP アドレスと OS の IP アドレスを異なる値に設定することで運用回避が可能です。運用回避手順は以下の通りです。

(1) ESMPRO/ServerAgent Extension の設定画面上で、BMC IP アドレス同期機能を無効にしてください。

(2) BMC の IP アドレスに OS の IP アドレスと異なる値を設定してください。

(3) 管理 PC またはゲートウェイの ARP テーブルに BMC が使用する MAC アドレスと IP アドレスを static に設定してください。

ESMPRO/ServerManager が管理対象サーバと同一ネットワークセグメントにある場合は、管理 PC の OS 上に BMC の MAC アドレス-IP アドレスの対を static 設定してください。
ESMPRO/ServerManager が管理対象サーバと同一ネットワークセグメントにない場合は、管理対象サーバが所属するネットワークセグメント上のゲートウェイに BMC の MAC アドレス-IP アドレスの対を static 設定してください。

BMC に設定した IP アドレスが 157.55.85.212、MAC アドレスが 00-aa-00-62-c6-09 の場合、Windows ではコマンドラインから以下のように入力することで設定可能です。

```
arp -s 157.55.85.212   00-aa-00-62-c6-09
```

5.3.4 「IPアドレスを自動的に取得する（DHCP）」機能について

BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する管理対象サーバは、DHCP サーバから IP アドレスを自動的に取得する機能をサポートしています。

ESMPRO/ServerAgent Extension は以下の管理対象サーバでこの機能の設定に対応しています。
- ・ EXPRESSSCOPE エンジンシリーズを搭載している管理対象サーバ
- ・ アドバンスドリモートマネージメントカードまたは ft リモートマネージメントカードを搭載している管理対象サーバ

5.4 BMCコンフィグレーション情報設定の初期化について

ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC コンフィグレーション情報設定の「初期値に戻す」、もしくは、EXPRESSBUILDER から起動して実行する「システムマネージメント機能」－「コンフィグレーション」の「新規作成」を行った場合、BMC コンフィグレーション情報の各項目に既定値が設定され、初期化されます。
搭載されている BMC が EXPRESSSCOPE エンジンシリーズ、アドバンスドリモートマネージメントカード、ft リモートマネージメントカードの場合、BMC Web サーバの IP アドレス設定も初期化されます。「Web サーバの設定」の IP アドレス設定は BMC コンフィグレーション情報と共有しているためです。
BMC コンフィグレーション情報と Web サーバの設定が共有する内容は以下の通りです。
DHCP 設定
IP アドレス
サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ

なお、Web サーバの設定は、以下の方法で変更できます。
・管理対象サーバを EXPRESSBUILDER から起動し、「ツール」－「システムマネージメント機能」－「BMC Web サーバの設定」を選択。
・BMC Web サーバにログインし、「設定」－「ネットワーク」を選択。

付録 LANポートのTeaming設定時にESMPRO/ServerAgent Extensionを利用する場合の設定手順

OS 上で LAN ポートの Teaming 設定を行った環境で、ESMPRO/ServerAgent Extension を利用する場合は、この章に示す手順で設定を行ってください。

BMC が標準 LAN ポートを使用する装置の場合と、BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する装置の場合に分けて説明します。

1. BMC が標準 LAN ポートを使用する装置の場合

BMC が標準 LAN ポートを利用する管理対象サーバ上で標準 LAN ポートを Teaming 設定で使用する場合は、2.2.1「BMC が標準 LAN ポートを使用する装置の場合」に示す LAN ポートの Teaming 設定時の注意を参照してください。

管理対象サーバの OS が Linux の場合、ESMPRO/ServerAgent Extension をインストールして利用するための手順に、Teaming 設定の有無による違いはありません。

管理対象サーバの OS が Windows の場合、ESMPRO/ServerAgent Extension をインストールして利用するために、以下の手順で設定を行ってください。

1. ESMPRO/ServerAgent Extension の BMC IP アドレス同期機能を無効にする。
2. ESMPRO/ServerAgent Extension 上で BMC コンフィグレーションを設定する。
3. ESMPRO/ServerAgent Extension が利用する OS の IP アドレスを設定する。

1 .ESMPRO/ServerAgent Extension の IP アドレス同期機能を無効にする。

(1) Windows のスタートメニューから、「ESMPRO ServerAgent Extension」－「ESMPRO ServerAgent Extension」をクリックしてください。

(2) ESMPRO/ServerAgent Extension のメインダイアログボックスで「BMC IP アドレス同期設定」ボタンをクリックしてください。

(3) BMC IP アドレス同期機能を無効に設定してください。

2 .ESMPRO/ServerAgent Extension 上で BMC コンフィグレーションを設定する。

4.3「ESMPRO/ServerAgent Extension を使ってコンフィグレーションする(LAN 接続)」に従って、BMC コンフィグレーションを設定してください。その際、下記の点に注意してください。

・Teaming アドレス(Preferred Primary)と BMC コンフィグレーション上の LAN1 の IP アドレスを一致させてください。

・BMC コンフィグレーション上で LAN2 の設定を行わないでください。(LAN2 の IP アドレスが既に設定されていた場合は、0.0.0.0 に変更してください。)

チェック：

- 既に BMC コンフィグレーションを設定済みの場合も、BMC IP アドレス同期機能を無効にした後に、再度 LAN1 の IP アドレスの設定を確認し、再登録してください。

3 ESMPRO/ServerAgent Extension が利用する IP アドレスを設定する。

(1) ESMPRO/ServerAgent Extension のメインダイアログボックスで「Agent IP アドレスの選択」ボタンをクリックしてください。

(2) LAN1 に Teaming アドレスを設定してください。

チェック：

- 以前に ESMPRO/ServerManager に管理対象サーバを登録して接続チェックを実施している場合も、「2 ESMPRO/ServerAgent Extension 上で BMC コンフィグレーションを設定する」で設定した IP アドレスになっていることを確認してください。IP アドレスが異なっている場合は、編集後、必ず接続チェックを実施してください。

2. BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を使用する装置の場合

BMC が専用 LAN ポート(管理用 LAN ポート)を利用する管理対象サーバ上で、ESMPRO/ServerAgent Extension が Teaming 設定をした LAN を利用する場合、以下の手順で設定を行ってください。管理対象サーバの OS が Windows の場合も Linux の場合も手順は共通です。

ESMPRO/ServerAgent Extension 上で ESMPRO/ServerAgent Extension が利用する IP アドレスの設定

・ ESMPRO/ServerAgent Extension の設定画面の Agent IP アドレスの選択」で、Teaming に使用する IP アドレスを選択して設定してください。

チェック：

- 以前に ESMPRO/ServerManager に管理対象サーバを登録して接続チェックを実施している場合も、「ESMPRO/ServerAgent Extension 上で ESMPRO/ServerAgent Extension が利用する IP アドレスの設定」を実行後、必ず接続チェックを実施してください。

Revision History

1.00	2009/02/05	**新規作成**
1.01	2009/03/23	OpenIpmi **ドライバの記述を追記。誤記訂正。**